

令和5年度シラバス

文化学園大学保育専門学校

科目名				授業の種類		授業担当者	
子どもと表現B				講義		小池 悟	
学年	単位	時間数	授業回数	履修時期	選択・必修		
1	1	30	15	前期	幼免:必修選択 保育士:選択		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>幼児の表現の姿や、その発達を理解するとともに、造形表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。</p>							
<p>[授業全体の内容と概要]</p> <p>①領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達を促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びについて実践的に学び、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能・表現力を身に付ける。 ②作品制作を通して材料研究・技術の向上を図り多様な表現方法を習得し、保育士として現場で活かせるような体験をする。</p>							
<p>[受講上の注意事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作作品は必ず完成させる。予定進度まで到達しない場合は、授業時間外での取り組みが必要。 ・課題ごとの資料収集など、必要に応じて主体的に取り組む。 							
[使用テキスト]				[評価基準]			
<ul style="list-style-type: none"> ・「幼児造形の基礎」(萌文書林) ・その都度資料プリントを配布。 				<ul style="list-style-type: none"> ・課題作品・レポートの提出状況70% ・授業への意欲・態度30% 			
[授業の日程と各回のテーマ・授業内容]							
回	項目		授業内容				
1	オリエンテーション		・領域「表現」のねらい及び内容の理解 乳幼児の遊びや生活における領域「表現」び位置付けについて				
2	ポートフォリオの作成		・ポートフォリオの作成を通して保育を振り返り、幼児の心情や思考についての理解を深め保育構想の向上に活用する。				
3	自然との対話 －身体の諸感覚を研ぎ澄ます－		・身近な自然やその素材の特性に触れ、感じる・見る・聴く・楽しむことを通した造形表現を行う。				
4	素材との対話 －素材の特性を生かす－		・身近な素材に身体の諸感覚を通じて触れ、その特性を生かして造形表現を体験する。 ①新聞紙…折る、切る、包む、貼る、破く				
5	素材との対話 －素材の特性を生かす－		・身近な素材に身体の諸感覚を通じて触れ、その特性を生かして造形表現を体験する。 ②粘土…練る、伸ばす、包む、形作る、壊す				
6	素材との対話 －素材の特性を生かす－		・身近な素材に身体の諸感覚を通じて触れ、その特性を生かして造形表現を体験する。 ③ビニール袋…切る、開く、つなげる、包む、破く				
7	幼児の姿との対話 －見て、読みとる幼児の姿－		・映像や事例から、幼児の表現行為とその作品を観察する。 幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感する。				
8	生活行事と造形表現① －七夕飾りの作成支援－		・行事装飾として七夕飾りの基礎的な知識・技能を身に付け、幼児の表現活動に展開させる。				
9	幼児の描画と発達段階の理解①		・幼児の描画活動と発達段階の関係性についてICTを活用した鑑賞活動を行う。				
10	幼児の描画と発達段階の理解②		・年齢や発達段階における様々な描画上の表現様式の傾向と特徴を理解し、模写制作行う。				
11	絵の具を使った造形活動① －個人制作－		・絵の具を使った作品制作を行い、様々な画材・表現技法について体験する。				
12	絵の具を使った造形活動② －共同制作－		・絵の具を使った協働による壁画制作を行い、様々な画材・表現技法について体験する。				
13	生活行事と造形表現② －クリスマス装飾の作成支援－		・行事装飾としてクリスマス装飾の基礎的な知識・技能を身に付け、幼児の表現活動に展開させる。				
14	ICTを活用した総括		・これまでの学習内容についてICTを活用したまとめを各自行う。				
15	学習のまとめ		・各自がまとめた学習内容を、ICTを活用して発表する。				
実務教員としての経歴							
実務経験と授業の関連							